

英語交流会が開かれました

佐藤洋子(広報青年部会)

3月12日(土)、京成津田沼のサンロード5階和室で「英語交流会」が開かれました。この交流会は、英語のネイティブスピーカーを囲んで英語でチャット(おしゃべり)をしよう、という趣旨で、土曜の午後2時間、年に3回ほど催されます。

今回の参加者は16名。参加者はアメリカやフィリピン出身のゲスト4名それぞれのテーブルに分かれ、各テーブルではスポーツやお菓子、旅行、健康保険、アメリカ大統領選挙、等々、さまざまな話題に花が咲きました。

この日は、地元の東邦中学校からなんと6名もの参加があり、交流会の平均年齢は劇的に若返りました(!?)。大半が初参加の中学生たちは、初めは少し緊張のおももち。会は1時間目と2時間目に分かれており、参加者は各自自由にテーブルを選んで話に参加しますが、中学生たちは最初の1時間目は「一緒にいたい」と全員まとまって、フィリピン出身ゲストのジェシカ西條さんのテーブルに集まりました。ジェシカさんのかもし出すなごやかなムードの助けもあり、皆だんだん積極的に話し出しました。

「趣味は何ですか?」「将来の夢は何?」等々、ジェシカさんのやさしい問いかけに、「え、先生、なんて言ったの?」「好きな趣味は、だって」と、中学生たちはお互いに助けあいながら一生懸命話します。

2時間目からは、場の雰囲気慣れたためか、中学生たちも各自いろいろなテーブルに分かれて、それぞれ活発に会話にトライ。終了後、「こんな間近で外国の人たちとしゃべったのは初めてで、緊張しました!」と声をそろえるのは、1年生の増田さん、2年生の中室さん、村上さん。同じく2年生の田邊さんは、「会話は難しかったけど、外国の人と話せて楽しかったです」と、ニッコリ。また、3年生たちは、「会話はちょっとぎこちなかったけど、もっと話したいと思いました」(市川さん)、「交流会の参加は私は2回目ですが、参加者の方が話を振ってくれたりして、助けていただきました」(中嶋さん)と、それぞれ手応えアリ!の様子でした。

世代や国を超え、和気あいあいの楽しい2時間となりました。



4テーブルそれぞれで英語の会話がはずみます。手前はゲストのジェシカさんと中学生の組。